

第3回我孫子市地域コミュニティ活性化基本方針策定委員会 会議概要

1. 日 時 : 平成24年9月8日(土) 9時30分から12時00分
2. 場 所 : 議会棟第一委員会室
3. 出席委員 : 坂口委員長/牛尾副委員長/荒井委員/石井委員/金川委員
上村委員/倉橋委員/小林委員/近藤委員/佐々木委員
新保委員/鈴木委員/田島委員/多田委員/服部委員/早川委員
山家委員/吉田委員/吉村委員/渡邊委員
4. 事務局出席者 : 枝村市民生活部長/四家市民活動支援課長/渡辺主幹
小池主査長/岩上主事/渡邊主事
5. 会議内容
 1. 自治会等へのアンケートについて
 2. まちづくり協議会との懇談会について
 3. 地域コミュニティ活性化に関する意見交換
 4. 次回の進め方
 5. 次回の日程について
6. 傍聴人及び発言者の数 : 傍聴人4人 発言者の数1人
7. 決定事項
 - ・アンケート項目については、策定委員の意見を踏まえ事務局で修正し決定は作業部会へ一任。

◆議事の内容

●自治会等へのアンケートについて	
○アンケートのタイトルについて	
委員	このアンケートのタイトルが「地域コミュニティの活性化に関するアンケート」となっているのに、活動の実態を聞いているものばかりで、地域コミュニティの活性化に関する質問が少ないように思います。タイトルと内容は合わせなくてはいけないと思います。問24の設問を展開するなど、そのような視点から見直しをしていただけたらありがたいです。また、地域コミュニティという言葉は、意味が重複していておかしいと思います。「地域社会」でいいのではないのでしょうか。言葉遣いをもう少し考えたほうがいいのではと思います。
委員	今回のアンケートの目的は、それぞれの団体やコミュニティの活動状況を把握することなので、活性化とってしまふと誤解を生むかもしれません。「地域社会」となると一般的になりすぎてしまい、今回の意味とは合わないのではないかと思いますし、地域コミュニティという言葉の解釈は、各自治体間などでもそれぞれで異なります。また、今回のこの委員会がそもそも地域コミュニティという文脈の中で始まったことなので、私は地域コミュニティのままがいいと思います。
委員長	地域コミュニティという言葉は変えられないと思いますので、地域コミュニティという言葉は残して、「活性化」という言葉を「活動」にして、「活動に関するアンケート」に変えるということではいかがですか。
委員	「交流の活性化」はどうですか。
委員	このアンケートは現状把握が目的なので、「現状把握のアンケート」でよいのではないのでしょうか。その結果を踏まえてコミュニティの活性化につなげるということではよいのではと思います。
委員長	アンケート調査のお願いの文章で書かれている「コミュニティ行政」という言葉は通常用語ですか。ご理解いただけるなら、それでよいと思います。
事務局	アンケート調査のお願いの文章ももっとわかりやすい表現に変えます。

○問1について	
委員	防犯協議会はどこに入れたらいいでしょうか。
委員	基本的には防犯組織は自治会の総合体であり、選択肢1にはまちづくり協議会も入っているので、選択肢1がいいかと思います。
事務局	自主防災組織は自治会と重複するのですが、今回分ける必要があればそのように致します。また防犯も選択肢が必要であれば入れていいと思います。
委員	防犯は自治会に任せていると思うのですが。
委員	防犯協議会という大きな組織があります。アンケート対象を支部とするのであれば、それは自治会ではありません。
委員長	それでは、「防災、防犯」という選択肢を増やし、選択肢7を「防災、防犯」、選択肢8を「その他」とします。
○問2について	
副委員長	活動する地域を一つ選択することになっていますが、新木・湖北地区は、中学校区で活動している団体も多いですから、地域がまたがっていることもありますので、設問の「一つ選ぶ」というところをぼやかして書いてほしいです。
○問4について	
委員	60代や70代などの区分けが分かりづらいと思います。
委員	作業部会の中では、アンケートに答える人の主観で答えてもらえばよいということになりました。イメージを持ちただけで、年齢をしっかり把握したいわけではないです。
委員	区別するのであれば、意味合いをもたなければならぬと思います。
委員	20代以下、現役世代、65歳以上という3分割でもいいという意見もありました。
委員	市民団体の場合は60代、70代の割合が高いです。70代は結構いますが、60代がどれくらいいるのかということに関心があるので、分けていただきたいです。
委員長	年齢の違いは、見た目では分からなくなるので、信憑性が問われると思います。

委員	作業部会の話では、20代までの若い人が多いのか、20～50代の就労世代が多いのか、最初の仕事をリタイアした人が多いのかという話になっていました。年代を登録している団体も多くないので、データとして信憑性が低いと思います。60歳以上にすれば問題ないのではないのでしょうか。
委員	団塊の世代がどれだけ入っているのかを把握するには、60代という選択肢は必要だと思います。
副委員長	一つの選択にするから難しいのではないですか。統計的に問題がないのであれば、好きに答えてもらえばいいと思います。
委員長	それでは、設問の「一つ選び、」の部分を削除します。
○問5について	
委員	選択肢3「近隣センター」が二つ出てくるので、最初の近隣センターを削除したほうがいいと思います。
○問7について	
委員	選択肢3の「わからない」は最後のほうがいいと思います。
委員長	それでは、選択肢3の「わからない」を最後にもっていき、3. 「どちらかといえば不足している」4. 「不足している」5. 「わからない」に変更します。
委員	この「どちらかといえば足りている」「どちらかといえば足りていない」という選択肢だと、常態化している場合や資金の範囲内で活動しているなどの状態は、足りているという答えになるのですか。「足りてはいないけど、不足はしていない」などが真ん中にくるなど、選択肢に工夫がほしいです。
委員	「満足している」「不満である」「予算に合わせて活動している」にしておいたほうがいいのではないのでしょうか。
委員	そのような選択肢にすると、自治会を中心としたものになってしまいます。選択肢はもっと色々なアンケート対象に対応するものにするべきだと思います。
委員	この問題については、今出てきた意見を考慮していただき、作業部会に任せるということによいかと思います。
委員長	それでは、問7の選択肢の内容は、以上の意見を踏まえ

	て、作業部会で検討してください。先ほどの「わからない」の選択肢の場所については、最後に持ってくることで決定します。
○問 9 について	
委員	選択肢 3 の「わからない」は最後のほうがいいと思います。
委員	「かわらない」を入れる必要があると思います。
委員長	それでは、選択肢 3 を「かわらない」、最後に「わからない」を持ってくることにします。
○問 1 5 について	
委員長	問 9 の設問をあわせて、選択肢 3 の「わからない」を最後にもっていき、3. 「どちらかといえば不足している」 4. 「不足している」 5. 「わからない」に変更します。
○問 2 4 について	
委員	地域のコミュニティの活性化において場所の問題がとても重要だと思うので、「気軽に集まれる場所がある」などの選択肢が必要だと思います。
委員	そのとおりだと思います。
委員	問 5 と問 1 0 の中の設問でカバーできるのではないかと思います。
委員	議論する時間がないのであれば、お任せします。
○問 2 5 について	
委員	小学校単位の活動が活発なので、そのような類の選択肢を中に入れることをご検討いただきたいです。
委員	小学校区の選択肢を設けなくても、自由回答で書いてもらえばいいのではと思います。
委員	私もあえて設問は設けずに、自由回答でよいという意見に賛成です。
委員	NPO と市民団体の区別が分かりづらいと思います。NPO 法人とすれば区別できると思います。
事務局	NPO と市民団体の区別については修正していきます。
○問 2 7 について	
委員	行政課題の中に「縦割りであり、横断的でない」の選択肢を入れてほしいです。
委員長	それでは、「縦割りであり、横断的でない」の選択肢を

	増やすこととします。
●まちづくり協議会との懇談会について	
委員	久寺家まちづくり協議会の情報について訂正をお願いいたします。この資料については女性中心となっていると書いてありますが、現在の役員は女性の方は5人のみで、ほとんど男性であると付け加えていただきたいです。
事務局	設立当初は女性が多かったのですが、現在は男性が活躍しているということで、訂正いたします。
委員	現状を把握したいという意味で、施設の利用率と利用者数を知りたいです。その地区でない人たちが使っているということもこの資料には書いてあるので、それについても知りたいです。
事務局	次回の策定委員会で近隣センターの利用率等の資料を配布いたします。
委員長	まちづくり協議会との懇談会は、途中経過だそうです。今後も何回か行われるそうなので、何か聞いてほしいことがある方はお願いいたします。
委員	それぞれの10箇所ある近隣センターの利用について、サークルやいろいろな団体が利用していますが、利用者の優先順位などはあるのですか。それとも、どの団体も平等に扱っているのですか。今回分からなければ、次回資料をいただきたいです。
委員	どこも同じだと思いますが、受付をして重複したら抽選を行うなど、平等に扱っています。
委員	それぞれまちづくり協議会で異なると思いますが、それについては市民活動支援課が把握していると思います。
事務局	策定委員会の議論で必要ということであれば、それも含めて資料を配布したいと思います。今後のまちづくり協議会との懇談会につきましては、9月22日に開催します。第一回目は現状の課題について把握いたしました。二回目以降は今後どうしていくかということについて議論を行うこととなっています。開催回数につきましては、予定としては2、3回としておりますが、足りないようであればもう少し行います。今後も内容についてはご報告いたします。
委員	まちづくり協議会は趣味の集まりをやっており、自治会

	<p>関係の集まりも少し行われていますが、自治会関係の方があまりうまくいっていないように感じています。まちづくり協議会のメンバーは自治会やその他いろいろな団体から出てきている役員の人たちの集まりですから、その役員の人たちが中心になって、まちづくりについて検討することは出来ないでしょうか。これは、まちづくり協議会が本来どうあるべきなのかということに関連しますが、その地区のまちをどうしていくかということ考えることが、まちづくり協議会の一つの目的だと思います。しかし、そのような協議はなかなかありません。まちづくり協議会が定期的に集まりを行っているのであれば、今後はそのようなことについても検証していただきたいと思います。</p>
事務局	<p>今、言ってくださったことが、まちづくり協議会が担っている役割の部分だと思っています。そのために我孫子市は25年前にコミュニティ整備計画を作ったわけです。しかし現状としては、この間の統計を見ますと、10のまちづくり協議会の中で8つのまちづくり協議会では自治会と懇談会を設けております。また全てのまちづくり協議会で広報誌を出しているとのことでした。それらを見てみると、まちづくりには自治会が必要だという認識が高いという印象でしたが、現実としてなかなか協力を得られないということも事実です。その点については、今後まち協のあるべき姿についてもう一度皆様にご理解いただき、また今後のまちづくり協議会機能についても、再度検証していこうと思っています。</p>
委員長	<p>次のまちづくり協議会の懇談会にそういう視点をいれていただくことということで、よろしく願います。</p>
<p>●地域コミュニティ活性化に関する意見交換</p>	
<p>○●●委員の意見に関する意見交換</p>	
委員長	<p>事前に策定委員の方からたくさんの意見が出されています。要点を各委員の方にご説明いただいた後、意見交換を行っていただきます。</p>
委員	<p>課題としましては、最初から上の人たちが集まっていたため、世代交替がうまくいっていないのが現状です。団体ができて13年になり、新しく組織を編集するには新</p>

	<p>しい方に来ていただきたいが、運営に関してもうまくできていないのが実態です。世代間交流の次の段階として、こどもたちをお世話している団体や子どもたちと関係している団体と交流を深めたいということで始めたのに、高齢化が進んでいる世代とばかり交流しており、声かけなどはしていますが、次の世代との交流がなかなか持てていません。市への要望としましては、非常にいいことを言ってくれていると思いますが、青少年やこどもたちへの予算は厳しくなる一方でありまして、活動をもっとしてくれといわれても、これ以上できないのが現状です。どこかに集中してくれるのであれば、こどもたちに関しては、我々が予算の中で頑張ってみようということになるのですが、いろいろ言うだけで何も生きてこないなという印象を持っています。</p>
委員	<p>新旧住民の間でコミュニティづくりに活性化する気持ちに温度差を感じますというところに興味があります。旧住民の方は、ある意味ですでに濃密なコミュニティがあるという中で、今度どのように取り組んでいくかということは重要な問題だと思います。これについて、何かコメントがあればよろしくお願ひいたします。</p>
委員	<p>こどものイベントをやっている時に、旧住民が参加してくれれば、もっと地域的なひろがりが見えるなと思えるイベントもあるのですが、次の世代の若い方は参加してくれるのですが、おじいちゃん、おばあちゃん世代がもっと参加してくれればな、というところで止まってしまっているのが現状です。広がりをどうして行くべきか、まだ難しいところです。</p>
委員	<p>新旧住民という表現はどのへんの時代で区切っているのですか。私は我孫子生まれですから、もう70年近くここにいます。昭和40年代に入ってきた人間と平成になってから入ってきた人間といろいろいますよね。新旧の定義についてお伺ひしたいです。</p>
委員	<p>昔からの言い伝えなどが伝わっていないなというのが一番普段から問題視しているところです。このように地域における知識の伝承がないという意味で、申し上げたということです。世代間交流の重要性を感じています。</p>

委員長	子どもの集まりに、子どものいない世代が集まるような活動をしていらっしゃるのですか。それでも集まらないのですか。
委員	昔の遊びのコーナーに高齢者などが来てもらえれば、お孫さんやお孫さん以外の子どもたちにも教えてもらえる機会があるでしょうが、そもそもそのイベントになかなか来てくれないのが現状です。今、お父さん、お母さんの世代は昔の遊びをほとんど知らないので、自分のお孫さんの手を引いてでも上の世代の方にもっと来てもらいたいのですが。
委員長	お孫さんにこだわると、お子さんのいない方が来れなくなってしまうのではありませんか。
委員	事業を展開している場所が公園ですので、お子さんの有無に関係なく来られる方もいらっしゃるのですが、たしかタイトルが子どもの関係になってしまっているのも、それで来ないのかもしれませんが。検討させていただきます。ありがとうございます。
副委員長	新旧住民に温度差を感じるというところで、実際に冷たいと感じるのがどちらですか。これは大変重要な問題です。
委員	私も旧住民として、冷たいのは旧住民です。
委員長	まずは、子どもという言葉を使わないでイベントを開催するなどの工夫をされるといいと思います。
○●●委員の意見に関する意見交換	
委員	課題としては、若い人をいかに引き込んでいくかということと、次世代の活動主体をいかに育てていくかということだと思います。活動している中では、自治会との対応が3つのことをやっていかななくてはならないのですが、一つは交流活動、二つ目は、地域の問題解決には自治会との連携が必要であるということ、そして三つ目に近隣センターの管理、運営です。活動の中で最も進んでいないのが自治会との関係の構築です。自治会の規模が大から小まで差があること、自治会数が多いということ、一年交替で役員が変わるということ、そして高齢化している自治会が多いというところで活動が停滞しています。いろいろな活動で懇談会を行っていますが、なかなか

	<p>か参加していただけないとともに、単なる勉強会になってしまって、活動に生かされていかないというところに課題があると思っています。活動している中での課題としましては、役員だけでやる活動ではなくて、バックにつくボランティアなどの活動家をいかに育てていくかが重要だと思っています。天王台では数年前から夏祭りを復活させたのですが、商店会さんと有志の団体が協力してうまくいくようになっていきます。そのようなことを含めて、役員のサポーターをいかに作っていくかが重要だと思っています。また、団塊の世代の方が多くなっている状況の中で、いかに役員に引き込んでいくかが課題だと思っていますし、コミュニティ全般の問題としましては、いろいろな団体と自治会がいかに連携していけるかだと思います。現状としては市民団体と自治会が連携していることは、なかなか行われていないと思いますし、いかにまとめていけるかということが課題だと思います。また、わたしたちの範囲は成田線で分断されてかなり広いので、それを一つにまとめることは難しいと思っていますので、ある程度区切った形でやっていくことも必要かなと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>人の問題が一番大きい課題だという考えに同感です。それに関連して、市の施策に対する意見として、ボランティア人材の育成ということをお書きになっていますが、これについて何か具体的なイメージはお持ちでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>ボランティアをいかに育てていくかというところで、いろいろなことをやっていただきたいという意味で書かせていただきました。具体的なイメージというものは持っておりません。</p>
<p>副委員長</p>	<p>まちづくり協議会や民生委員、PTA等と自治会等の連携の問題について、これからの課題だと指摘されていますし、私もそのように考えておりますが、それについて具体的にイニシアティブを取っていくのは今の我孫子の中では、まちづくり協議会だろうと私は思っています。そういう意味では、そのような認識がまち協の中に今持っているかではなく、今後その方向性で活動はできるの</p>

	かどうなのかという点について、ご意見をいただきたいです。
委員	それをやっていかななくてはならないというところで、8年ほどやっていますが、実際には難しいところがあります。まち協のなかでもそのようなことをよく理解したリーダーを育てていかななくてはならないと思います。専門とするリーダーをいかに探して、取り込んで、活動してもらおうかということが課題だと思いますし、それを行わないと厳しいと思います。また、まち協そのものの位置づけとして、自治会に対する連合会のようになっていませんので、しほりかけるような配置も活動も難しいですし、一方でまたそれを強化しすぎることにも不具合が出てきますので、難しい問題だと思います。
○●●委員の意見に関する意見交換	
委員	皆様が属している自治会の中の防災組織、市内全体で123団体あるものを一つでくくったような団体です。課題としましては、まず自治会のないコミュニティがまだ市内にあります。自治会がなければもちろん防災組織はできないという順番になるので、まずは自治会を増やすことが必要という前提があります。さらに自治会の中でも防災組織をつくっていないところが全体の3分の1ありまして、組織率が66%となっています。この数値をいかに高めていくかが課題だと思っています。その前提となるのが、住民の方の防災意識だと思います。この委員会の中でも防災意識の高い方と低い方がいらっしゃると思いますが、この温度差がまず一つの防災組織の中でまとめていく、次に横との連携の中でまとめていく、あるいは市全体でまとめていくという中で非常に難しい問題の根底にあると思います。活動の中での課題ですが、まずは意識の温度差の問題、次に人材育成の難しさ、特に高齢化していく、働いている若手の人は防災に手が回らないというところで、防災を考える層の薄さが一つの大きな課題だと思っています。日常生活の中で感じ取る地域の課題は、少子高齢化への対応です。このまま行くと、自治会が存在するのだろうか、この先10年、20年経って防災組織などが存在するのだろうかというところが

	<p>気になっています。いかに若い人につないでいくかということが大きな課題だと思っています。市の施策に対する意見ですが、若者が、我孫子が不便ということで、都心に出て行ってしまっています。いかに若者を我孫子に縛っておけるかについて、市に対応してほしいと思います。また、これは反論があるかもしれませんが、私は我孫子にお金がないのであれば、補助金制度をやめてしまえばよいと思っています。それよりも、行政は知恵で市民をサポートしていくべきだと思います。市は知恵を出し、お金は市民の方どうにかしてくださいというような方向に持っていったほうがいいのではないかと思います。</p>
委員	<p>防災組織と消防団組織はどのような関係があるのか教えてください。</p>
事務局	<p>消防団は消防関連の法律に基づいた非常勤特別職の公務員で組織されています。自主防災組織に関しては、住民の方が自主的に組織されています。二つの関係としましては、防災訓練では消防団にも参加してもらって関わっていくというところです。また機能も異なってくると思います。消防団は火災が起きると実際に行って消火活動を行います。自主防災組織は、火事を未然に防ぐ活動、防災意識を高める活動を主にやっているという違いがあります。</p>
委員	<p>旧住民の集落があるところは、消防団は歴代ずっとありますが、新興住宅地の湖北台などはないところがあるみたいなのですが、そのあたりはどうなっているのですか。</p>
事務局	<p>例えば柴崎台には消防団はないのですが、旧地区をカバーしている分団が柴崎台まで見ているところなので、新しいところもカバーしているという状況です。湖北台ですと、中里の分団の範囲です。</p>
委員	<p>連合会で議論したことがありますが、消防士がいるのに、なぜ連合会の役員のお年寄りがやらなくてはならないのかという議論がありました。新住民はそういう防災関係が弱い。ここにきて、ようやく動き出したところで、田舎に行けば町内会が動き出す。</p>

委員	消防団と分団の役割分担は、消防というのは火を消しにいき、昔からある分団は消えた後の再発をしないように見守るという仕事を分担しているはずです。
委員	消防団も見回りをして防災に努めているところもあるので、その辺りのところの違いがあまり明確ではないなと思います。新しい方に寄付金などをもらいに行くと、消防署が火を消してくれるのに、必要ないだろうと言われるのがほとんどでした。しかし年配の方に聞くと、その燃えた後の後片付けについては、消防署ではなく消防団が来てくれることを理解しています。このようなところに防災組織との違いがあるかなと思っている中で、新興住宅地と旧住宅街の間で、組織の違いはどうなっているのかと思って質問させていただきました。
委員	役員さんの任期が一年ということで大変なので、自主防災組織そのものは、自分たちの庭は自分たちで守るという啓発活動や訓練、共助をどうやるかということを中心に細かく、繰り返し活動をしていき、徐々に活動の質を高めていくことが本来の姿ではないかと思っています。私の自治会では、近隣の家で構成される一つの班で、確実に安否確認をしましょうということになっています。そのために定期的な家族構成の調査や出かける予定などの届出制度、さらにそれぞれの班や支部の情報をまとめるようなシステムを作っています。全て行政に助けてもらうということではなく、自分たちで自分を守るという講習会も定期的に行っています。
○●●委員の意見に関する意見交換	
委員	まず組織や分野の課題としましては、役員の編成です。まち協の会長、副会長は自治会役員経験者を選んでいるのですが、肝心の自治会役員の世代交替が進んでおらず、長いことやっていらっしゃる方が交代で行っているのが現状です。またそのような方はそもそも活動的な方が多く、いろいろな団体の活動も行っていますので、その中でまちづくり協議会の役員をしてもらいたいと思ってもなかなか引き受けてもらえません。また、まちづくり協議会というものが何をしているか、何を目標としているかが浸透していないことも簡単に引き受けてもら

	<p>えない原因となっています。活動の課題としては、長年のノウハウというものがあるので、イベントは経験を積んだ年寄りが行っている傾向があります。また新たに引越してきた方が、個人情報保護などを理由に情報を十分開示してくれません。さらに、日常生活の中で言いますと、子育て世代、現役世代、退職して間もない世代、高齢者世代は別のネットワークで活動しているため、交流があまりないのが現状です。地域の課題としては、高齢化の中で見守り活動や治安などが課題になっています。そして市に対する施策に対する意見ですが、まち協への要望が多岐にわたっているなかで、その辺りの調整が必要だと思えますし、縦割り行政などの組織割りを乗り越える必要があると思えます。最後に、コミュニティづくり全般の課題としては、「コミュニティづくり」というイメージが沸きづらいので、説明する必要があると思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>個人情報保護の関係についてですが、この法律の過剰反応といいますか、誤解というものが根深いと思えます。市の方をお願いしたいのは、住民の方の誤解を解くことを、こつこつとやっていただきたいと思えます。何かをやろうとすると、個人情報保護法を振りかざす方が多く、その度に説明しています。例えば、私の町では毎年世代調査というものをやっており、どこに高齢弱者がいて、どこに災害時の支援者がいるかということを含む活動を行っているのですが、それ自体が個人情報保護法に触れているのではないかと言われます。強制的に情報を言わせれば、他の法律に触れるのかもしれませんが、このように、個人情報保護法の誤解がコミュニティ活動の障害になっています。広報あびこなどで、何が個人情報保護法違反なのか、具体的な事例などを踏まえてしっかり説明してほしいと思えます。</p>
<p>事務局</p>	<p>広報掲載するかどうかは置いておくとしまして、まず、いろいろな活動をしていく中で、住民の方の情報を得ることは必要だと思えます。おそらく我孫子市内でも他の自治体であっても、独自に把握している事例はあると思えます。そういった事例を自治会の方や自主防災組織の</p>

	<p>方が相談に来てくだされば、紹介していきたいと思いますし、また情報発信もしていきたいと思います。</p>
事務局	<p>市が持っている個人情報はもちろん守られなければならないのですが、緊急性のある場合やその方の生命、財産を守るために必要であるならば、それを否定するものではありません。ただし、守り方に関しては慎重でなければならないというのが今の時代の流れだと思います。また地域が集めた個人情報についてですが、個人情報保護法というものは、5000件以上くらいの情報を持った企業などの団体に適用されるものでありますので、地域活動には直接引っかかってこないと理解しています。もちろん、私の個人情報は削ってくれと言われたものについては削らなくてはなりません、最低限の保護が守られる体制が整えられていれば、問題ないと思いますし、それがなければ、そもそもコミュニティ活動など出来なくなってしまいます。情報を提供する側も受取る側もわきまえて活用していただくことが大切だと思います。また、市の方針もあいまいなところがありますので、地域のまちづくりにおいて、どのような情報の使い方があるのかについて、検討していかなくてはならないと思います。</p>
<p>○●●委員の意見に関する意見交換</p>	
委員	<p>11町会で構成されている自治会です。4, 5年前からまちづくり協議会、地区社会福祉協議会と懇談会を持って活動しています。20年前くらいには一緒に祭りをやっていた時代もあったのですが、役員も高齢になってしまって、うまくいかなくなりました。もっとまとまって活動していきたいと思っていますが、えらい方が集まると、まとまるものもまとまらないというのが実態であります。日常生活で考えている課題としましては、役員が2年くらいで交代してしまって、引継ぎや今までの流れがスムーズにつながっていないことです。最低でも5年はやってほしいなと思います。また、コミュニティ全般についての課題については、定年の人が増えていますが、シルバー人材の活用や老人ホームの課題について取り組んでいただきたいです。また、プライバシーの</p>

	<p>問題ですが、うちの地区で困っているのは、表札を出さない人が増えていることです。また車の問題です。駐車場は大きくしているのですが、自動車の乗り捨て、無断駐車が多く、対処しようとして警察に電話をすると個人情報で止められるということが起きており、一体どこまでが個人情報なのかという点で非常に困っているところ</p>
委員	<p>私は高齢者の見守りをやっているのですが、住んでいることは分かっているのに、ベルを押しても出てこないで近所の方に話を伺うと、少しボケが始まっているので、息子さんに何があっても出るなど言われているということがあるようです。こちら側が働きかけても、あちら側から閉じてしまうという実態が増えてきています。そのような表札を出していないという問題について、どのように対処しているのですか。</p>
委員	<p>うちの事務所は必ず何人か駐在しており、何かあれば駆けつけるようにしています。しかし、表札をつけていなければ対処することもできません。表札については何回も交渉しているのですが、それは個人の情報の問題だとして調整できていないのが実態です。そもそも、集合住宅に住むにあたっての基本的なルールを守れない人もいます。子どもだけでなく、大人の教育も必要です。</p>
委員	<p>自治会の役員の任期が1年交代で困るという意見が多いのですが、逆に言うと、1年でないとなり手がいないというケースは多いです。これが3年となると絶対にやりたくないという意見が増えてしまうと思います。1年だから我慢して騙し騙しやっているというのが実態ですから、これを1年では困るというのでは、やっていけないかなと思います。</p>
委員	<p>役員の雑務が多くて大変であることが、続けて担えない原因としてあると思います。役員の方にお任せではなくて、まちの中にそれぞれ手伝いをしてくれるグループを作るなど、サポーターとして活躍してくれる人たちを見つけることが活性化において必要なと思います。新しいことをしたくないという役員の方が多いので、なかなか簡単なことではないとも思いますが。</p>

○●●委員の意見に関する意見交換	
委員	<p>「一人も見逃さない運動」を震災前から行っていました。先ほど出て来ました、表札を出さない、ベルを鳴らしても出ていらっしゃらないという問題はもちろん、まだお上の世話にはなりたくないという古い考えを持っている方や、必要以上に頼んでくる方などいろいろといらっしゃいます。私達の団体は、39名の民生委員と2名の主任児童委員の41名でやっていますが、地域差がかなりあります。民間アパートなどでは、業者がアパートを借りて、そこに生活保護の方を集めて民生委員にハンコを押させ、家賃だけを置いてその他全ての生活保護のお金を業者が取ってしまうという問題も起きています。民生委員はある程度踏み込めますが、権利もありませんし、守秘義務もありますので限界があります。ひとり親世帯も多くなりましたが発掘することが難しい実態があります。また虐待も増えているなかで、近所の方の報告などを聞きながら、見守り活動を行っています。最後に、市への施策に対する意見としましては、高齢者が多いと言われてはいますが、元気な方も頭のいい方も多いので、そのような方を集めて何かできたらいいなと思います。</p>
●次回の進め方について	
事務局	<p>今回は、意見交換の続きと庁内コミュニティに関する取組みの調査の結果をご報告いたします。また近隣センターの利用率等の資料をお配りします。</p>
委員	<p>第4回策定委員会についてですが、委員の調査票の発表の続きをするとのことですが、皆様、中身の詰まったご意見ですので、かなり時間がかかってしまうことが予想されます。資料も出ておりますので、資料の補足をするような形で進めるとよいと思います。</p>
委員	<p>策定委員会の1回目のときに話していたことですが、この委員会の目的を文章化して共有することが必要だと思います。なんとなく一緒だけれども、少しずつずれてしまうということが起きますし、なぜコミュニティの活性化をするのかと質問された時に説明する材料として必要だと思います。</p>

事務局	共通認識が持てるような文章化した資料について検討いたします。
●次回の日程について	
第4回策定委員会 9月29日(土)9時半～	
第5回策定委員会 10月27日(土)9時半～	